

# 眠り寺小屋

Tokyo Nishikawa Sound Sleep Information



## 羽毛ふとん 2

寝具について②

## 快眠情報 Vol.12

羽毛ふとんの種類はさまざまで、その心地よさにも違いがあります。使う人をやさしく包み、幸せな眠りへと誘う。今回は、やすらぎを提供する西川産業の羽毛ふとんの秘密について、ご紹介します。

### 業界基準をはるかに超えるすぐれたフィリングパワー

フィリングパワーとは、羽毛が備えているかさ高性のことをいいます（ふとんにした時の「かさ高」ではありません）。これは、精製された羽毛を JIS 規格によって定められた方法に基づいて測定されます。他社の倍にも及ぶ工程を経て精製加工された西川産業の羽毛は、業界基準をはるかに超える、すぐれたフィリングパワーを備えています。

#### ●フィリングパワーの測定方法

内径29cm、高さ50cmのシリンダーに30gの原毛試料を入れ、120gのおもしを2分間のせた後の高さを測定。3カ所を1mm単位まで測定し、その平均値を求めます。



### 側地は羽毛に最適な超長繊維綿を使用

ダウンは針の先であけたぐらいの小さな穴からも吹き出してしまいます。ですから、羽毛ふとんの側地には、高密度に織られた生地が用いられ、さらにダウンブルーフ加工（目潰し）が施されています。西川産業の羽毛ふとんの側地の主流は、超長繊維綿を使用し、朱子織の高密度織りを採用しているため、しなやかな風合い・肌ざわりがあり、羽毛の特性をさらに高めています。ダウンブルーフ加工のほか、抗菌防臭、防ダニ加工などの衛生加工を側地にも施してあるため、清潔で安心してお使いになれます。

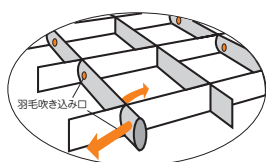
### 繊維長による綿花の区分

短繊維綿	20.6mm未満
中繊維綿	20.6~25.4mm
中長繊維綿	26.2~27.8mm
長繊維綿	28.6~33.3mm
超長繊維綿	34.9mm以上

### 独自開発の「完全立体キルト」だからいくら使っても羽毛が片寄らない

使っているうちに中の羽毛が片寄ってしまうと、せっかくの保温性も台無しです。西川産業では、独自に開発したボックス型の「完全立体キルト」を採用しているため、使用中に羽毛が片寄ることがなく、いつでも均一の保温性が得られます。

#### ●完全立体キルト（ソリッドステーキキルト）



仕切りテープにより完全にボックスをつくる立体キルト。ボックスひとつひとつに平均してダウンが詰められます。

### 品質表示タグは、西川産業からの「安心」のしるし

以上のように、西川産業の羽毛ふとんは、原毛の輸入から精製加工工程を経て商品化されるまで、自社で一貫して責任をもって品質を管理しています。その証が、羽毛ふとんに必ずつけられている品質表示タグ。羽毛の混合率、側地の素材などが明記され、縫製責任者の名前も記されています。これは、心地よい眠りを求める方への、西川産業からの「安心」のしるしです。

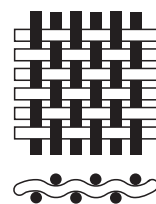


### 羽毛ふとんをよみがえらせるために

軽くて暖かくて快適な羽毛ふとんも、使っているうちに汚れてきたり、羽毛が目減りしたりして、だんだんくたびれてきます。より長く、気持ちよく使っていただくために、西川産業では、羽毛ふとんのリフレッシュ（洗濯）、クイックリフォーム（羽毛補充）、リフォーム（仕立て直し）を行っています。お気軽にお問い合わせください。

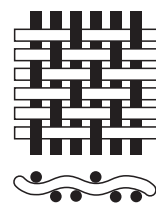
### 織物について

織物の基本となる組織には、平織、綾織、朱子織があり、これを三原（さんげん）組織といいます。三原組織をベースに、変化組織、特別組織の織物がつくれます。



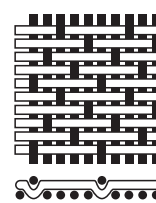
#### ●平織

経糸と緯糸が1本ごとに規則正しく上下入れ替わりながら組織されたもの。最も単純な糸の組み合わせで、表裏が同じです。



#### ●綾織（ツイル）

経糸と緯糸が互いに2本以上おきに交差し組織することによって、斜めの方向に畝を表したものです。



#### ●朱子織（サテン）

経糸と緯糸が、4本以上おきに交差し組織し、しかもその交差する場所（組織点）が互いに隣接しないように規則的に配置された組織。